

東通原子力発電所に新しい仲間が加わりました

東北電力では、平成26年度の新入社員として、219名を採用し、うち6名が東通原子力発電所へ配属となりました。

現在は、電力社員に必要な基礎知識や技能を身につけるため、様々な教育を受講し、新社会人としての第一歩を踏み出しております。

皆さまからの温かいご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



発電所の安全を支えるため、一日も早く仕事を覚え、独り立ちできるよう頑張ります！

東通原子力発電所敷地内破碎帯の調査に関する有識者会合が開催されました

平成26年3月31日、原子力規制委員会の「東通原子力発電所敷地内破碎帯の調査に関する有識者会合」の第8回評価会合が開催されました。

会合では、原子力規制委員会から示された議論のポイントのうち、主に第四系の変状*について議論を行いました。この中で確認した有識者の疑問点等に対し、次回以降の会合において、しっかりと説明させていただきたいと考えております。

当社見解に、ご理解が得られるよう引き続き真摯に説明を尽くしてまいります。

※第四系の変状：敷地内の断層を覆う第四系(約12～13万年前以降に堆積)の一部に見られる小断裂や段差、たわみ等



平成25年9月3日～4日に実施した有識者会合による現地調査の様子

下北半島東部において海上ボーリング調査を実施します

当社および日本原燃株式会社、東京電力株式会社、リサイクル燃料貯蔵株式会社は、中長期的な取り組みとして、下北半島太平洋沖に位置する大陸棚外縁および下北半島の地下深部の構造を把握し、この地形を形成したメカニズムを検討するため、平成24年11月以降、4社共同で海上音波探査を主体とした調査を実施しております。

これまでの調査で、大陸棚外縁の断層は「将来活動する可能性のある断層等」ではないという評価も含めて事業者の耐震設計上の評価が変わるものではないことを確認しております。

さらに平成26年4月より、データの拡充を目的に、深い海底を掘削できる地球深部探査船「ちきゅう」を活用した「海上ボーリング」を主体とする調査を実施することといたしました。

本調査から得られたデータについても、有識者から構成される第三者委員会から、指導・助言をいただきながら、評価してまいります。



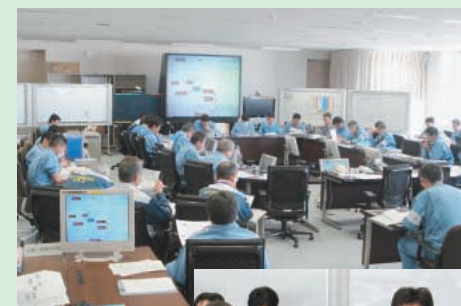
地球深部探査船「ちきゅう」
独立行政法人海洋研究開発機構が保有する世界最大の探査船。
地球環境変動の解明、地殻変動と地殻内の物質環境の解明、地下生命圏と地殻内流体の解明の目的で活躍している。

図上演習を実施しました

東通原子力発電所では、平成26年3月28日、発電所運転中に大地震が発生し、全ての電源および冷却機能が失われ、燃料損傷に至るとい、極めて厳しい事象を想定した「図上演習」を実施しました。

演習では事故の進展を予測しながら、緊急時に要求される対応や対策について、事前に担当課毎に勉強会を開催し、その後、全体討議において発電所としての対応方針を検討しました。

今後も様々な訓練や演習を繰り返し、災害対応力の向上に努めてまいります。



図上演習とは

図上演習とは、机上で行うイメージトレーニング型の演習方法で、タイムスケジュールを設定して行う通常の訓練と違い、時間をかけてじっくりと検討・討議することができる。



(事前勉強会)